

第46回 横浜市小学校第二次研究大会（養護研究会）

- 1 日 時 令和3年9月1日(水)
- 2 場 所 西公会堂
- 3 発表主題 磯子区 「保健センターとしての機能の充実をめざして」

～㊦れでも ㊧っでも ㊨ぐに ㊩ちんと～

港北区 「養護教諭の発信力の向上を目指して」

～「わくわく」や「なるほど」を効果的に引き出すために～

4 研究討議

(1) 磯子区

●質問 無し

(2) 港北区

●質問 なぜ、企業向けのプレゼンテーションシートを使ったのか。企業向けの資料、冊子を入口にしたのか。どんな意図があったのか。

⇒ 当初、「プレゼンテーション」をキーワードに研究を始めた。学校に限らず、企業などの社会人、学生にとって多くの場面でプレゼンテーション力が求められるようになっていく。プレゼンテーションとはいったいどういう場面のことを言うのか？どういうスキルを求められているのか？多くのビジネス書が出ていて、まず、その本を入口とした。その中で、プレゼンにおける重要な要素や、プレゼンを成功させるための準備として「プレゼンテーションシート」の活用法が載っており、私たちのあらゆる発信場面にも使えるのではないかと、それを起点に研究を始めた。

ただ、プレゼンテーションには多くの重要ポイントがあり、企業向けのプレゼンテーションシートでは、私たちの研究のポイントとは別のところに重点が置かれていたことから、使いにくさもあり、「プレゼンテーション力」を「発信力」と変え、プレゼンシートを学校仕様にアレンジしていくことを研究内容とすることになった。

●質問 構成シートは授業研の指導案と似た部分があると思うが、あえて構成シートを使うメリットはどんなところか。どう使い分けるか。

⇒ 「構成シート」は、指導案よりも簡単に手軽に、あらゆる発信場面の事前準備に使えるものにしたいと考えて研究してきた。ちょっとした指導場面でも、事前にささっと構成シートを埋めていくことで、5つの重要ポイントを抑えながら発信を組み立てることができ、「わくなる」を軸としたストーリーを考える際の設計図となる。シートが使いづ

らいと、ただの面倒なものになってしまい、いずれ使わなくなるので、誰もがあらゆる発信場面でどんどん使っていけるものになるといいと思う。

【指導講評】 校長会健康教育部会部長 保土ヶ谷小学校 校長 小川 克之先生

はじめに、コロナ渦で大変な中、養護教諭が学校で管理職の支えになり仕事をしてくれている事にいつも感謝している。

磯子区

- ・養護教諭は殆どの学校で一人配置だからこそ、横の繋がりが大切である。磯子区の研究のように、保健室経営について、ベテランから初任まで連絡を取り、仕事を支え合ってほしい。
- ・食物アレルギー対応の発表について、実際に実技研修で動いて職員全体・学校全体で共有をしているのがとても良い。学校には命にかかわる重いアレルギー児童がいる。また、食べ慣れない食材でアレルギー症状を起こす児童もいる。ぜひ4月初めに全職員に行ってほしい研修である。
- ・担任は自分のクラス以外の児童のアレルギーの情報も知っておくことが必要である。学校のエピペン対応方法や緊急時対応方法を全教職員が知っておかなければならない。
- ・アレルギー症状が起こったら、インターホン等で教室からすぐに連絡をすることが大切である。このようなことは、研修を行って必要性や課題が分かることもある。
- ・熱中症についても、養護教諭をはじめとした職員のしっかりとした緊急対応が求められる。
- ・緊急時対応では、よく言う言葉の「見逃しはいけませんが、からぶりはよい。」のように、最悪を想定してしっかり対応することが大切である。
- ・注意が必要な虫については、学校で知識を教えることが大切である。現代の子どもはブヨやチャドクガをはじめとする危険な虫について、日常生活の中で見るといった先行経験が少ない。校外学習にいく際には指導していく必要がある。
- ・保健室のアイデア集もとても良い。養護教諭がいないときに保健室の備品が分かると、他の教員でも対応ができる。磯子区だけでなく、横浜市全体で広めてほしい。

港北区

- ・養護教諭は専門的な見地があるので、同じ内容の話をする場合でも担任とは重みが違う。T-1 や T-2 で入ることもあるが、養護教諭が入ることで重みも違うし子どもたちもよく聞く。
- ・「わくなる」は目の付け所がとても良い。ビジネス書を参考にプレゼンテーションシートを作り、最終的に学校で使いやすいように改良した点が見事だった。指導案と違ってパッと見て分かりやすい。プレゼンテーションシートをその場限りではなく、他の養護教諭も使えるようにファイリングするなど保管についても工夫していけると良い。あらゆる発信場面で使える設計図というのは目の付け所が面白い。
- ・「わくわく」「なるほど」を引き出すのは、自分事として捉えられるかが一番大切である。資料 25 ページ、けがの防止の本時展開についてだが、子どもたちは危ない事をしてはいけないと頭で分かっているけどけがをしてしまう。27 ページのワークシートに休み時間の絵が出ており、どこが危ないか○をつけるものがある。こういった手法はよくあるが、子どもによっては自分事として考えられない事があり、そうすると深まりが出てこない。25 ページの映像を見て危険を予知する教材は素晴らしいと思った。教師が自作した、廊下を走っている目線の映像を使っていた。教材教具の工夫

である。子どもの目線で映像を作り見せた、これぞ「わくわく」「わくなる」であり自分事である。日頃気が付かないけれどもこれを見ると「けがしそうだよね」「ぶつかりそうだよね」と気付くことができる。ちょっとした教材の工夫が素晴らしい。絵を見て○をつけるだけでなく、映像を見せることが授業の深まりになった。

- ・職員研修の正しい嘔吐処理の方法は、低学年の先生は慣れているが中・高学年の先生は慣れていない。実際起こった時に慌てない為に、教職員全体で研修を深めておく事が大切である。

- ・保健学習・病気の予防については、難しい題材でもある。知識としてはしっかり教えて良いが、お酒やタバコは成人してからどうするかは子どもたちの判断になる。薬物乱用については法律で禁止されており、絶対ダメだという指導を入れた方が良い。悪いと思っていなくてもやっていしまう事があり、親しい友達に誘われたらどうするか等入れながら本時展開を考えていけると良い。

- ・港北区の提案は、具体的で良い資料が沢山入っていた。養護教諭が「わくわく」「なるほど」を思わせるためにどう指導していったら良いか、思いや情熱が資料の中に込められていた。

両区に向けて

- ・養護教諭は大黒柱であり、教わることが多いし頼りにしている。コロナ渦で大変かと思うが学校の為に頑張ってほしい。両区ともとてもよくまとめられていた。分かりやすく、きめ細かい良い資料が参考になった。

【指導講評】 横浜市教育委員会 健康教育・食育課主任指導主事 吉澤 千春先生

昨年度より新型コロナウイルス感染症の対応、学校がこれまで経験した事のない対応や、常に感染症対策を念頭に置いた教育活動など、様々な配慮を要する状況が続いています。その中で、養護教諭は子どもたちの事を第一に考え、養護教諭の専門性を生かし、学校の感染症対策の中核を担っていただっている事を感謝申し上げます。管理職や教職員、学校医や学校歯科医、薬剤師の先生方とも協力しながら対策を進めてくださってありがとうございます。そのような中で養護研究会の研究を進めていただき、全市に発信していただいた両区の先生方ありがとうございます。実践研究の着眼点が素晴らしく、実際にどの学校でも活用できる素晴らしい内容でした。それぞれの区の発表に関連する資料の紹介や今後に向けてのお話をさせていただきます。

磯子区

- ・平成20年1月の中央教育審議会には、「学校保健活動のセンター的役割を果たしている保健室経営の充実を図ることが求められる。」と記されている。また、横浜市人材育成指標の養護教諭版でも、「学校保健活動のセンター的役割を果たす保健室経営」が視点の一つに掲げてある。学校保健活動のセンター的役割の視点を持ち、研究しているということは、保健室や学校保健だけではなく学校経営にも繋がる研究であると考えます。区での研究にこの視点があるのは大変素晴らしい。

- ・事故が発生したときには、迅速な判断と適切な対応が求められる。しかし、いきなり動くことはできない。全職員の危機管理意識を高め、危機管理体制の確認と整備を行うとともに、事故等を想定した訓練を実施していくことが大切になる。

- ・研修は一度だけではなく、学校全体で計画的・継続的な実施ができるように計画を立ててほしい。
- ・養護教諭は校内研修の計画や実施に積極的に参画し、指導者としての役割を期待されている。今回の発表の「緊急です！」等の様々な例を参考にしてほしい。
- ・保健管理・組織活動・保健教育を連動させて行うことで、児童生徒や教職員の健康に関する意識が高まる。職員研修にとどまらず、担任が集団での指導につなげていくことで、子どもたちへの教育効果、担任の意識向上や浸透に繋がる。
- ・単発ではなく、学校保健計画や学校年間行事の計画に位置付けていくことで継続されていく。できることから始めていき、真似をしながら学んでいくと良い。

港北区

・「養護教諭の発信力」ととても良い着眼点だと感じた。情報を発信する際の様々なポイントがまとめられていて、中身を整理したり確認できる内容がたくさん盛り込まれていた。昨今は情報過多とも言われ、正しい情報をいかに選択していくかという力も必要だと言われている。また発信する側のスキルや表現も大切である。これは養護教諭に限らず子どもたちにも必要な力となっている。昨年度から完全実施されている新学習指導要領にも、思考, 判断, 表現力等という資質能力が位置付けられている。子どもたちはいかにこの能力を身につけていくか、小学校学習指導要領 国語に近い内容があったので紹介する。国語には話すこと・聞くことという分野がある。（学年ごとに習得する内容の表を示して）こちらで示したのは話すことの構成の検討、考えの形成、話すことの表現、共有である。低学年から中学校第1学年まで段階を踏まえてこの内容を習得していく。大人が見ても大切なポイントが押さえられているので目にしてみると良い。

また、「主体的・対話的で深い学び」という言葉も実践授業の視点として取り上げられていた。「主体的・対話的で深い学び」が目的になるのではなく、子どもたちが資質能力を身につけていく学習過程の質的改善を図る大切な視点としてこちらに示している。主体的・対話的で深い学び「アクティブラーニング」はどのように学ぶかの一端を担っている大切な視点になっている。

「わくなるポイント」というオリジナルのフレーズも出ていたが、学習指導要領には保健の内容の取扱いとしてこのような内容が記載されている。保健の内容に関心をもてるようにするとともに、健康に関する課題を解決する学習活動を積極的に行うことにより、資質能力の三つの柱をバランスよく育成していくことを示したものである。どういった場面で育成できるのか、例示してあるので参考にしたい。このような活動を通して、子どもたちが「なるほど」と知識を習得したり、「わくわく」しながら自分の考えを伝えたり相手の考えを聞いたりする場面になると考えた。体育科の保健の授業の際に参考にしたい。

また、資料の中に実施後のアンケート調査をやってみて、結果を分析したことが報告されていた。授業をやって活動をやって終わりではなく、やった後の振り返りをする事でより良いものにつながるので、ぜひ振り返りをして欲しい。担任の先生方や子どもたちの反応や、子どもたちが実際に記入した振り返りなどを参考にするともっと良くなる。担任の先生方は教えるプロなので、ぜひ連携してアドバイスを貰って欲しい。

こちらに示したのは、学級活動等における保健の指導で養護教諭が陥りやすい状況とその対策の一部である。子どもの視点、教師の視点を上手に取り入れて、計画的、組織的に実践することが書かれている。参考にして欲しい。

全体を通して

現代の課題をしっかり捉えている研究発表であった。全体を通して次の3点があげられる。

- ・活動や方法ありきではなく、「ねらいありき」を意識して欲しい。この活動を通して、子どもたちはどんな資質能力を身につけていくのか、各校の学校教育目標や学習指導要領に沿っているのか、その具現化のための活動を今後も展開して欲しい。
- ・多様化した健康課題に対応していくにはチーム力。区内の情報共有は困っていることだけでなくうまくいっていることも共有して欲しい。養護教諭のつながりを強化して欲しい。
- ・養護教諭の発信力で、この場で学んだことを各校で発信して欲しい。養護教諭の実践をつないで、よりよいものにして欲しい。養護教諭の実践力の向上につながる。